

課程 / Program	後期課程	開講年度・学期 / Semester	2023年度 1 期
授業区分	週間授業	合併講義等	
授業名 / Subject	特殊講義 英語学・英語教育学		

授業担当教員/Faculty	高梨 芳郎
----------------	-------

授業概要並びに到達目標 / Course Outline and Goals	<p>この講義では、博士後期課程における学修の基礎として、人文・社会科学研究、英語学・英語教育学研究の動向と考え方、科学的研究と研究者の在り方について学び、その基礎の上に、英語教育学研究に必要な研究法の知識・技能と専門的知識を修得する。研究法については、量的研究法・質的研究法等について理解を深め、研究法の学修で得た知識を参考にして、第二言語修得、言語技能、評価に関する英語教育研究の到達状況と成果について学修して、自律的な研究に進むためのコースワークを行う。</p> <p>初回から第13回までと第15回の授業は対面で行う。第14回はオンライン（Google Meetでの同時双方向型）で行う。受講登録をした受講生には大学の電子メールで授業開始前にGoogle MeetのURLを連絡する。</p>
--	--

授業計画 / Schedule	<p>第1回 人文・社会科学研究の動向と考え方 第2回 英語学・英語教育学研究の動向と考え方 第3回 研究における科学と研究倫理の在り方 第4回 研究法（量的研究）の動向と課題 第5回 研究法（質的研究）の動向と課題 第6回 第二言語修得研究の考え方 第7回 第二言語修得研究の研究法と研究事例 第8回 第二言語修得研究の成果と課題 第9回 第二言語教育における言語技能についての考え方 第10回 第二言語教育における言語技能の研究法と研究事例 第11回 第二言語教育における言語技能研究の成果と課題 第12回 第二言語学修における評価の考え方 第13回 第二言語学修における評価研究の方法と研究事例 第14回 第二言語学修における評価研究の成果と課題 第15回 研究課題の整理と考察</p>
-----------------	--

成績評価基準 / Assessment criteria	授業中の取り組み、課題への対応状況、レポートの成績を総合的に判断して行う。
------------------------------	---------------------------------------

教科書（参考書） / Textbook/Reference Materials	<p>『学術の動向』2018年10月号 公益財団法人 日本学術協力財団 「英語学・英米文学・英語教育 各界の回顧と展望」『英語年鑑』研究社 2019年 『科学の健全な発展のために』日本学術振興会 2015年 Brown, H.D.(2014), Principles of Language Learning and Teaching(6th ed.) Pearson Education, Inc.</p>
---	---

課程 / Program	後期課程	開講年度・学期 / Semester	2023年度 1 期
授業区分	週間授業	合併講義等	
授業名 / Subject	特殊講義 I 英語学・英語教育学		

授業担当教員/Faculty	佐藤 一嘉
----------------	-------

授業概要並びに到達目標 / Course Outline and Goals	この講義では、博士後期課程における学修の基礎として、人文・社会科学研究、英語学・英語教育学研究の動向と考え方、科学的研究と研究者の在り方について学び、その基礎の上に、英語教育学研究に必要な研究法の知識・技能と専門的知識を修得する。研究法については、量的研究法・質的研究法等について理解を深め、研究法の学修で得た知識を参考にして、第二言語修得、言語技能、評価に関する英語教育研究の到達状況と成果について学修して、自律的な研究に進むためのコースワークを行う
--	--

授業計画 / Schedule	<p>第 1 回 人文・社会科学研究の動向と考え方 (Introduction to Research methods)</p> <p>第 2 回 英語学・英語教育学研究の動向と考え方 (Introduction to linguistics and applied linguistics)</p> <p>第 3 回 研究における科学と研究倫理の在り方 (Research ethics)</p> <p>第 4 回 研究法 (量的研究) の動向と課題 (Quantitative methods)</p> <p>第 5 回 研究法 (質的研究) の動向と課題 (Qualitative methods)</p> <p>第 6 回 第二言語修得研究の考え方 (Introduction to SLA)</p> <p>第 7 回 第二言語修得研究の研究法と研究事例 (Research methods in SLA)</p> <p>第 8 回 第二言語修得研究の成果と課題 (Research issues in SLA)</p> <p>第 9 回 第二言語教育における言語技能についての考え方 (Second language teaching)</p> <p>第 10 回 第二言語教育における言語技能の研究法と研究事例 (Research methods in SLT)</p> <p>第 11 回 第二言語教育における言語技能研究の成果と課題 (Research issues in SLT)</p> <p>第 12 回 第二言語学修における評価の考え方 (Language assessment)</p> <p>第 13 回 第二言語学修における評価研究の方法と研究事例 (Research methods in LA)</p> <p>第 14 回 第二言語学修における評価研究の成果と課題 (Research issues in LA) (オンライン授業)</p> <p>第 15 回 研究課題の整理と考察 (Summary)</p>
-----------------	--

成績評価基準 / Assessment criteria	授業中の取り組み、課題への対応状況、レポートの成績を総合的に判断して行う。
------------------------------	---------------------------------------

教科書 (参考書) / Textbook/Reference Materials	教科書は使用しない。資料を配付する。 参考書については初回の授業で説明する。
--	---

課程 / Program	後期課程	開講年度・学期 / Semester	2023年度 1 期
授業区分	週間授業	合併講義等	
授業名 / Subject	特殊講義 I 英語学・英語教育学		
授業担当教員/Faculty	Duane Kindt		
授業概要並びに到達目標 / Course Outline and Goals	This course aims at developing a PhD student's basic understanding of linguistics and applied linguistics, in particular, Second Language Development (SLD) and Second Language Teaching (SLT). Moreover, a student will be expected to improve their research skills using quantitative and qualitative methods in a mixed methods study. Finally, a student will learn about methods for defining and assessing SLD so that a student will be able to develop his/her own research.		
授業計画 / Schedule	第 1 回 人文・社会科学の動向と考え方 (Introduction to research methods) 第 2 回 英語学・英語教育学の動向と考え方 (Introduction to applied linguistics) 第 3 回 研究における科学と研究倫理の在り方 (Research ethics) 第 4 回 研究法 (量的研究) の動向と課題 (Quantitative methods) 第 5 回 研究法 (質的研究) の動向と課題 (Qualitative methods) 第 6 回 第二言語修得研究の考え方 (Introduction to second language development) 第 7 回 第二言語修得研究の研究法と研究事例 (Research methods in SLD) 第 8 回 第二言語修得研究の成果と課題 (Research issues in SLD) 第 9 回 第二言語教育における言語技能についての考え方 (Second language teaching) 第 10 回 第二言語教育における言語技能の研究法と研究事例 (Research methods in SLT) 第 11 回 第二言語教育における言語技能研究の成果と課題 (Research issues in SLT) 第 12 回 第二言語学修における評価の考え方 (Language assessment) 第 13 回 第二言語学修における評価研究の方法と研究事例 (Research methods and LA) 第 14 回 (Online) 第二言語学修における評価研究の成果と課題 (Research issues in LA) 第 15 回 研究課題の整理と考察 (Summary) *The 14th class will be taught online.		
成績評価基準 / Assessment criteria	授業中の取り組み, 課題への対応状況, レポートの成績を総合的に判断して行う。		
教科書 (参考書) / Textbook/Reference Materials	教科書は使用しない。資料を配付する。There is no textbook. Materials will be distributed. 参考書については初回の授業で説明する。Reference sources will be recommended from the first class.		

課程 / Program		開講年度・学期 / Semester	2023年度 1 期
授業区分	週間授業	合併講義等	
授業名 / Subject	特殊講義 I 日本語学・日本語教育学		
授業担当教員/Faculty	坂本 正		
授業概要並びに到達目標 / Course Outline and Goals	この講義では、博士後期課程における学修の基礎として、日本語学・日本語教育学研究の動向と考え方、科学的研究と研究者の在り方について学び、その基礎の上に、日本語学・日本語教育学研究に必要な研究法の知識・技能と専門的知識を修得する。研究法については、量的研究法・質的研究法等について理解を深め、研究法の学修で得た知識を参考にして、日本語学・日本語教育研究の到達状況と成果について学修して、自律的な研究に進むためのコースワークを行う。		
授業計画 / Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1) オリエンテーション 2) 研究における科学と研究倫理の在り方 3) 引用の仕方と参考文献の書き方 4) 日本語学研究の基礎概念 5) 日本語学研究と生成言語学 6) 日本語学研究と認知言語学 7) 日本語教育学研究の動向と考え方と基礎概念 8) 研究法 1 (量的研究法) 9) 研究法 2 (質的研究法) 10) 研究法 3 (混合研究方法) 11) 第一言語獲得と第二言語習得 12) 第二言語習得研究の歴史 13) 第二言語習得研究の研究手法 14) 第二言語としての日本語の習得研究の現状と課題 15) まとめと振り返り 		
成績評価基準 / Assessment criteria	授業中の取り組み、課題への対応状況、レポートの成績を総合的に判断して行う。		
教科書 (参考書) / Textbook/Reference Materials	教科書は使用しない。資料を配付する		

課程 / Program	後期課程	開講年度・学期 / Semester	2023年度 1期
授業区分	週間授業	合併講義等	特になし
授業名 / Subject	特殊講義 I グローバルコミュニケーション		

授業担当教員/Faculty	佐藤 都喜子
----------------	--------

授業概要並びに到達目標 / Course Outline and Goals	<p>授業概要： この講義では、博士後期課程における学修の基礎として、開発分野における様々な調査手法について学ぶ。まず、基礎的知識として社会科学における量的・質的調査方法について復習する。その上で、現場の状況に応じた様々な調査手法を修得する。</p> <p>到達目標： 開発現場で、状況に応じて調査手法を使い分けられることのできるための基礎的知識を身につける。</p>
--	--

授業計画 / Schedule	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 社会科学における量的研究</p> <p>第3回 社会科学における質的研究</p> <p>第4回 開発の歴史</p> <p>第5回 開発プロジェクトのタイプ</p> <p>第6回 政府開発型プロジェクトの調査法①：現状分析</p> <p>第7回 政府開発型プロジェクトの調査法②：評価指標の同定</p> <p>第8回 政府開発型プロジェクトの調査法③：事前・事後調査</p> <p>第9回 参加型開発とは何か</p> <p>第10回 草の根型プロジェクトの調査法：PRAとは？</p> <p>第11回 PRAの実際①：地図作成、季節カレンダー</p> <p>第12回 PRAの実際②：社会関係図、課題探しとランキング</p> <p>第13回 PRAの実際③：因果関係図</p> <p>第14回 PLA・アクションリサーチ</p> <p>第15回 まとめ</p>
-----------------	---

成績評価基準 / Assessment criteria	授業中の取り組み、課題への対応状況、レポートの成績を総合的に判断して行う。
------------------------------	---------------------------------------

教科書（参考書） / Textbook/Reference Materials	教科書は使用しない。資料を配布する。 参考書については初回の授業で説明する。
---	---

課程 / Program	博士後期課程	開講年度・学期 / Semester	2023年度1期
授業区分	週間授業	合併講義等	合併授業
授業名 / Subject	特殊講義Ⅰ グローバルコミュニケーション		

授業担当教員/Faculty	鈴木 茂
----------------	------

授業概要並びに到達目標 / Course Outline and Goals	<p>学術研究の基本的な手法について、質的データの分析方法について検討する。テキストとして、佐藤郁哉『質的データ分析法—原理・方法・実践』（新曜社、2008年）を使用し、毎回、章ごとに要点を確認する。</p> <p>質的データの分析にあたって留意すべき点を確認し、論文作成に役立てるようになる。</p>
--	---

授業計画 / Schedule	<p>佐藤郁哉『質的データ分析法』（新曜社、2008年）を章ごとに読みます。</p> <p>第1回 授業の説明</p> <p>第2回 第Ⅰ部 質的データ分析の基本原則／第1章 7つのタイプの「薄い記述」</p> <p>第3回 第2章 豊かで厄介な質的データ</p> <p>第4回 第3章 定性的コーディング</p> <p>第5回 第4章 脱文脈化と再文脈化</p> <p>第6回 第5章 事例—コード・マトリックス</p> <p>第7回 第Ⅱ部 質的データ分析の実際／第6章 資料を整理する</p> <p>第8回 第7章 コーディングを行う</p> <p>第9回 第8章 分析の方向性をさぐる</p> <p>第10回 第9章 概念モデルをつくる</p> <p>第11回 第10章 報告書を書く</p> <p>第12回 討論1 論文作成にどう活かすか</p> <p>第13回 討論2 論文作成にどう活かすか</p> <p>第14回 討論3 論文作成にどう活かすか</p> <p>第15回 まとめ</p>
-----------------	--

成績評価基準 / Assessment criteria	授業時の報告と討論に基づいて評価する。
------------------------------	---------------------

教科書（参考書） / Textbook/Reference Materials	<p>佐藤郁哉『質的データ分析法—原理・方法・実践』（新曜社、2008年）</p> <p>他に</p> <p>伊丹敬之『創造的論文の書き方』有斐閣、2001年</p> <p>小熊英二『論文の書き方』講談社現代新書、2022年</p> <p>久米郁男『原因を推論する』有斐閣、2013年</p> <p>高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書、1979年</p>
---	---

課程 / Program	後期課程	開講年度・学期 / Semester	2023年度 1期
授業区分	週間授業	合併講義等	なし
授業名 / Subject	特殊講義 I グローバルコミュニケーション		

授業担当教員/Faculty	大岩 昌子
----------------	-------

授業概要並びに到達目標 / Course Outline and Goals	<p>博士後期課程における学修の基礎として、科学的研究と研究者の在り方について深く学ぶ。そのうえで、人文・社会科学研究、音声・音声習得研究の動向を見極め、音声習得研究に必要な研究法の知識・技能、および専門的知識を修得する。研究方法については、量的研究法・質的研究法の両面から理解を深めていく。第二言語修得、音声習得、音声評価に関する研究の現況と成果について学修し、自律的な研究を行うことができるようになる。</p> <p>第14週のみZOOMによるオンライン授業となる。 受講登録をした受講生には大学の電子メールで授業開始前に連絡する。</p>
--	--

授業計画 / Schedule	<p>第1回 ガイダンス、人文・社会科学研究の動向と考え方 第2回 音声習得研究の動向と考え方 第3回 研究における科学と研究倫理の在り方 第4回 研究法(量的研究)の動向と課題 第5回 研究法(質的研究)の動向と課題 第6回 音声習得研究の考え方 第7回 音声習得研究の研究法と研究事例 第8回 音声習得研究の成果と課題 第9回 中国語音声の特性の検討 第10回 日本語音声の特性の検討 第11回 成人の音声習得に関する研究事例 第12回 成人の音声習得に関する分析と評価 第13回 成人の音声研究に関する課題 第14回 発表 第15回 まとめ</p>
-----------------	---

成績評価基準 / Assessment criteria	授業中の取り組み、課題への対応状況、レポートの成績を総合的に判断して行う。
------------------------------	---------------------------------------

教科書(参考書) / Textbook/Reference Materials	<p>授業で配布する。 また、音声分析ソフト(種類は任意)を使用する。</p>
---	--